



ペットボトル、飲み残しに気をつけよう!

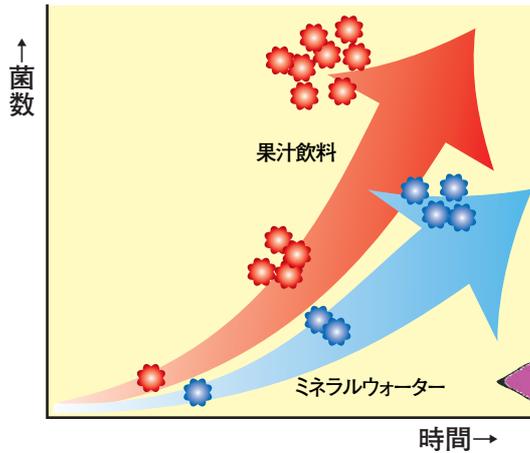
考えよう!

便利なペットボトル飲料だけど?

ちびちび飲んで、フタをして、また飲んで、また閉めて。これ、ちょっと問題もあるみたい。どうして?

答えは?

口をつけて飲んだ飲み物には、口の中の菌が入ります。時間がたつと、ペットボトルの中でその菌が増えて不衛生になります。また、何日も放っておいたボトルは、破裂することもあるのです。



飲み残したボトルの中では、ばい菌が増えていっているんだ!

「清潔に」「早めに飲みきる」「残ったら冷蔵する」ことが大事だね!



■どうして菌が増えていくの?

何か食べながら、ペットボトル飲料を飲む。みんながよくやっていることですね。でも、食べ物や口からは、いろいろな菌が必ず飲み物に入ります。そして飲み物の栄養を利用して、どんどん増えていくのです。特に高い温度を好む菌にとっては、これからの暑い季節、フタをしたままのボトルの中は、

最高の環境にもなるのです。もちろん、すぐに何かの病気にかかったり、すべてのばい菌が増えていくわけではありませんが、注意したほうがいいことは確かです。きちんと気をつければ、便利でおいしいペットボトル飲料です。じょうずに飲むように心がけてください。

こんなことに注意しよう!

1.開けたら、早めに飲みきろう!

だらだら時間をおいて飲むのは、やめましょう。飲み残したら、冷蔵庫に入れて、なるべく早めに飲みきりましょう。



2.きちんとコップについて飲もう!

外ではムリかもしれないけれど、家ではボトルから直接飲まないで、コップについて飲みましょう。



3.部屋や車の中に置き忘れない!

暑い部屋では、ボトルが破裂することも! 飲み残しはきちんと捨てて、容器はちゃんとリサイクルへ。



ちょっと、食休み。

こんなことわざ知ってますか?

前号に続き、ことわざのお話。食についてのことわざは、いくつかの種類があるようです。「うまいものは早く食え」「何でも食べ過ぎれば、身体に悪い」などのように健康に良い食生活を伝えるもの。逆に「夏の蛤は犬も食わぬ」「西瓜に天麩羅」など、体に悪い季節の食材や食べ合わせを教えるものもあります。そして「衣食足りて、礼節を知る」「憂いも辛いも食うての上」「空きっ腹にまずい物なし」など、

食べること自体のありがたさ、大切さを語ったもの、等々。ただ、どのことわざも昔の人々が長い年月で培った経験から生まれたのはいうまでもありません。しかし現代の私たちは、遺伝子組換え食品、食品添加物、未知の細菌やウイルスなど、昔の人の経験からだけでは安全性を判断できない様々な要因の中で生活しています。だからこそ、先入観のない、科学的見地からのリスク評価が重要な時代なのですね。

